

2024年度
フィールドスタディーズ（学外学修）受入機関および学修テーマ

受入機関名〈五十音順〉		学修テーマ
加茂市役所		【メディア×自治体】 Z世代に刺さる加茂市の魅力とその伝え方を考えよう！
新潟経済同友会	株式会社 当間高原リゾート	地域の魅力を活かした販売戦略 ～新たな宿泊プランの提案～
	株式会社 コメリ	SDGsの視点から新たな暮らしを提案しよう
	株式会社 たかだ	減災リノベーションによる住宅ストック維持向上
	株式会社 ツインバード	会社イベントに関する提案
	ヤマト運輸 株式会社	過疎地の地域課題に宅急便事業がどう寄与可能か
公益財団法人 新潟県女性財団		ジェンダーってなんだろう？ ～冊子『20代×ジェンダー』のPRチラシ作成～
株式会社 新潟ケンベイ		購買層を意識した精米のPR・販売の企画・提案
新潟県労働金庫		若年層向けSDGs Reportの作成 —福祉金融機関〈ろうぎん〉の取組み浸透に向けて—
新潟市教育委員会 東地区公民館		「沼垂地域」を活性化する事業を企画立案し、実施する
一般社団法人 農村振興センターみつけ		国の交付金事業を活用した農業・農村活性化事業における 環境調査と新たな地域ブランドの提案
宮内摂田屋method		宮内摂田屋エリアの地域振興にむけたアイデア提案

■問い合わせ先

新潟大学創生学部

〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地
TEL.025-262-6998（創生学部学務係）
<https://create.niigata-u.ac.jp>



新潟大学創生学部
ホームページQRコード



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

(2024年5月発行)



新潟大学は、令和6年に創立75周年を迎えます。

新潟大学 創生学部

フィールドスタディーズ

2024



FIELD-BASED
STUDIES
NIIGATA UNIVERSITY
COLLEGE OF CREATIVE STUDIES

フィールドスタディーズ（学外学修）とは？

学生が企業や自治体など、学外のフィールドに赴き、グループで活動を行う授業です。グループごとに現場の方々のサポートを得ながら課題を発見し、学生主体の企画や提案を行います。一連のプロセスによって、社会の課題を体感し、大学での学修意識の転換を図ります。授業は学外で行う4週間のフィールドワークのほか、学内で行う事前・事後学修によって構成されています。

フィールドスタディーズで身につく力



学生受入機関担当者からメッセージ

株式会社たかだ
(受入：2017、18、20、21、22、23年度)

令和5年度のテーマは「リノベーションによる空家の利活用」でした。住宅産業の変遷と流行（施主ニーズ、建築デザインなど）に深く関わってきました。そのなかで本学修を通じ、当社と様々な活動に関わってきた住宅会社、建築設計士、まちづくりプロジェクトの方々とは学生と交流しながら新潟の住みづくりを考え、斬新な意見を取り入れていくことに喜びを感じています。今年も空き家利活用に取組みます。ご参加をお待ちしております。



株式会社たかだ

新潟県労働金庫
(受入：2017～2023年度)

当金庫は、営利を目的としない協同組織の福祉金融機関です。2023年度は、「福祉金融機関『ろうきん』の『過去』『現在』『未来』—『ろうきんファン』拡大に向けたリーフレット作成—」がテーマでした。FSでは回を重ねるごとに活発な意見が交わされ、学生ならではの柔軟な発想のもと工夫を凝らした成果物を作成いただきました。主体的に考え、仲間と協力し課題に取り組む経験は、今後の学生生活に役立つはず。皆様のご参加をお待ちしております。



新潟県労働金庫
キャラクター
ロッキー

事務局長
高藤 篤さん

宮内摂田屋method
(受入：2023年度)

当地は、発酵醸造のまちとして470年の連続とした歴史の集積あるまちです。現在（いま）このエリアにあらたな価値を見出すべく、若い人たちとの関わりが深まっています。2023年度FSでは、学生のみなさまがエリアデザインにおける課題発見から様々な提案をしてくれました。そして、実践の伴うそれら活動は具体的なコンテンツ造成につながります。遣り甲斐ある行動が形になる、社会における貴重な経験になるものと思います。発酵のプロセスのように「まざり、つながり」ともにあらたな価値を創出いたしましょう。



事務局長
高藤 篤さん

授業の流れ（火・水・木曜日9：00～17：00 全8週間）

事前学修（2週間）



1週目

- 授業ガイダンス
- 全体レクチャー（外部講師）
- チーム編成

2週目

- 個人目標設定
- フィールド事前調査
- グループ目標設定

学外学修（4週間）



3週目

- フィールドに関するレクチャー・グループ単位での活動を行う。（1グループ3～5名）

4週目

- 各フィールドでの学修・学修内容や課題は協力機関ごとに設定する。
- 現地調査、ヒアリング、ディスカッションなどを行う。
- 学外での活動を中心とするが、必要に応じて学内での活動も行う。



5週目

- 学外学修のまとめ
- 各フィールドでの成果を報告し、現場の方々から学ぶ。

6週目

事後学修（2週間）



7週目

- グループでの学修成果のまとめ（プレゼン準備）

8週目

- 公開报告会（最終プレゼンテーション）の実施
- レポート提出

2024年度協力機関（五十音順）

